

令和6年度 第3回 大阪府立枚方高等学校 学校運営協議会 議事録

日 時 令和7年2月3日(月)

13時30分～15時00分

場 所 本校 図書室

次 第

1 学校長挨拶

今年度の総括を次年度につなげていく大事な会議になります。大阪府も大きな教育改革が動き出し、あわただしい日々を過ごしております。そんな中学生たちは日々の活動がんばっている。

2 出席者紹介

3 資料確認

4 事務局より

(1)校長より 資料

Q. 学校教育自己診断「ボランティアが活発である」増加したということだが、どんなボランティア活動がなされているのか？昨今、特に中学校では校則の見直しがすすんでいるが、高校ではどのような取り組みをしているのか。

A. 生徒会が中心となり、全クラブ員で学校周りの清掃を行った。部活動単位では、吹奏楽部が支援学校で演奏会を行ったり、生物飼育部が生き物に触れあってもらえるイベントを実施したりしている。生物飼育部は、穂谷の休耕田で自然環境や絶滅危惧種を守る取り組みをしている。

校則については、まずは教員で話し合う場を設けた。総合的な探究の時間の中で、生徒たちが校則について研究する動きもある。来年度以降、生徒会も一緒に考えていけるように柔軟に取り組みたい。

(2)首席より 資料

回答数の増加が課題。保護者は、回答しにくい部分もあり、回答が少ないということは不満が少ないと捉えることもできる。教員に関しては、意見が出てほしいところもある。

(3)進路指導部より 資料

(4)その他

校長：姉妹校提携について、国際文化科の卓越性を教育庁にも求めている。

5 協議、意見交換

Q. 「校則が～適切であるか」校則について、時代的背景として、マルチジェンダーなどしんどい生徒の声を聞いておられるからこそ、先生の意見が反映されているのかと思う。

設備面での配慮をどう考えておられるか。多機能トイレなど。

A. トイレの改修については、和式の洋式化が済んでいる。マルチジェンダー向けトイレは2か所ある。

Q. 掲示はあるのか？

A. 今は確認できていない。

Q. R7 年度計画にある、「対話」のテーマについては、どのようなものを考えているのか。

A. 部活動、行事内で、うまく伝わっていない部分を感じている。対話ができる雰囲気づくりを意識して取り組みたい。

(意見) 高校生にとって教員はまだ対等に話ができる関係性ではないと思う。合理的配慮とまではいなくとも、授業の進行の仕方を変えていけるような入口になってほしい。

Q. PTA 活動が活発であるとの回答が多いが、先生方から見てどう思うか。

A. 活発に活動していただいて、本当にありがたい。

(意見) 小中学校では、なり手不足も問題になっている。協力していただけることはありがたいですね。

(意見) 仕事の関係、小中学校の役が大変だったイメージから、引き受けていただきにくい部分もある。活動日数の削減、活動内容の精選等、組織改革にも取り組んでいる。文化祭等の行事では本当に熱心に取り組んでいただいている、感謝している。

Q. 「子どもから学校のことを聞いているか」という質問に保護者の肯定回答数が少ないことに関して、高校生にもなれば、学校の話をお聞きしなくなることもあるので、この回答数は妥当かと思う一方で、自分たちの意見が反映されていないことに対するあきらめの気持ちもあるのではないかと。行事は生徒会が中心になっていると聞いているが、生徒会が他の生徒の意見をどこまで反映されているのか、生徒会と先生で決めているのではないかと、他の生徒の意見を吸い上げ切れていないのが問題だと思う。特に文化祭では、生徒会が決めたことをほかの生徒はよく思っていないという話も聞く。生徒会と他の生徒、PTA との対話も可能ではないか。校則であれば、生徒の意見、保護者の意見を交流させられる場があれば、もう少し学校に関心を持ってくれる保護者が増えたのではないかと。

A. 生徒会の生徒たちも、意見を取り入れるために意見箱を設けたりもしている。

Q. クラスの中での対話を担任がファシリテートしているのか。

A. 限られた時間の中で、例年通りにこなすので精一杯というのが実情。そうなるとうちでも、クラスの意見を生徒会に伝えるというより、生徒会で決めたことをクラスに卸す形になってしまう。

(意見) 本校の学校教育自己診断は 9 割をめざしている。グーグルフォームでしていない。

ジェンダーへの配慮が気になる。本校では各フロアにトイレがある。高等学校も行政がしっかりやっていくべきだと思う。

対話について、教員間の連携は取れているように見受けられる。生徒や保護者との対話は中学校がうまくしているところがある。具体的な内容を来年間かせていただけたら。

小学校では、児童会が活発だと学校が元気になる。高校にも期待する。

(意見) 教員間の対話もまだ十分ではないという認識がある。

(意見) 対話のやり方そのものを検討していくことも大事かと思う。

(意見) 今対話がすごく求められている。生徒には対話を活性化するために、グランドルールを設けている。ルールがあるから安心して話を聞いてもらえると思うので、対話が活性化していくきっかけになる。タブレット等の影響で、発信する力が高まっているが、聞く力、対話する力が不足していると思う。教職員も、会議が連絡報告だけになっていて、意見交換の機会がなかったため、プロジェクトチームを作った、場の設定とルールの設定が大事だと思う。

Q. 共通テストの「情報」について生徒の反応はどうだったか。

A. 本校では「情報」の受験者が少なかったため、意見は聞けていない。一般的に、易しい傾向にあった。

6 その他

資 料

- 1 令和6年度 学校経営計画及び学校評価
- 2 令和7年度 学校経営計画及び学校評価
- 3 首席より「学校教育自己診断」分析
- 4 進路指導部より

令和6年度大阪府立枚方高等学校

学校運営協議会委員等名簿及び第3回学校運営協議会出席者名簿

協議会委員

番号	名 前	職 名	出 欠
1	堅田利明	関西外国語大学 准教授	出席
2	西村英理	枚方市立枚方中学校 校長	出席
3	嶋田 崇	枚方市立明倫小学校 校長	出席
4	白井美砂	枚方市立枚方保育所 所長	欠席
5	高田 茂	本校旧友の会 役員	出席
6	平井正彦	本校PTA会長	出席

学校側出席者一覧

番号	名 前	職 名	備 考
1	寶田康彦	校 長	
2	藤田清美	教 頭	事務局長
3	秋本徳子	事務長	事務局
4	藤本信吾	首 席	事務局(記録)
5	檜崎智子	首 席	事務局(記録)
6	前田和樹	教務主任	
7	榎木 貢	生徒指導主事	
8	阪口広徳	進路指導主事	
9	村島貴幸	保健主事	
10	小林宏之	文化国際部長	
11	杉原千佳	国際関係学科長	